

○吉松英明・富村健太\*・石井英夫\*\*・大久保裕行・中島隆\*・挾間渉

チオファネートメチル剤に対する*Fusarium graminearum*の耐性菌の初確認と*F. avenaceum*のベースライン感受性

Yoshimatsu, H., Tomimura, K., Ishii, H., Ookubo, H., Nakajima, T. and Hasama, W.: Occurrence of Resistant Strains of *Fusarium graminearum* and Baseline Sensitivity of *F. avenaceum* to Thiophanate-methyl

2002～2004年の3か年間に大分県内から麦類赤かび病菌1482菌株を分離した。2004年に分離された565菌株のうち5菌株は、チオファネートメチル(TM)剤100ppm含有培地上でも菌糸伸長が認められる耐性菌であった。この5菌株については遺伝子解析等の結果*F. graminearum*種複合体のLineage 6:*F. asiaticum*と同定され、毒素産生型は5菌株すべてニバレノール(NIV)タイプであった。以上のことから*F. graminearum*のTM剤耐性菌が我が国で初めて確認された。また、2002年に分離された460菌株のうち3菌株はEC<sub>50</sub>値が3.2～3.8ppmで、他の菌株の0.9～1.1ppmよりもTM剤に対する感受性が低かった。感受性の低かった3菌株は*F. avenaceum*と、その他の菌株は*F. graminearum*と同定された。農業生物資源研究所ジーンバンクから分譲された*F. avenaceum*のTM剤に対するベースライン感受性は、EC<sub>50</sub>値3.1～3.5ppmであり、*F. graminearum*よりもベースライン感受性が低かった。

(大分農林水産研安全・\*九州沖縄農研・\*\*農環研)

表 麦類赤かび病粒から分離されたチオファネートメチル剤耐性菌の特性

菌株 No.	採取場所	TM感受性	毒素産生型	菌種	Lineage
2	大分県日田市夜明	S	NIV	<i>F. graminearum</i>	6
9	大分県日田市夜明	R	NIV	<i>F. graminearum</i>	6
268	大分県豊後高田市荒尾	S	NIV	<i>F. graminearum</i>	6
274	大分県豊後高田市荒尾	R	NIV	<i>F. graminearum</i>	6
275	大分県豊後高田市荒尾	R	NIV	<i>F. graminearum</i>	6
446	大分県豊後高田市小田原	S	DON	<i>F. graminearum</i>	6
458	大分県豊後高田市小田原	R	NIV	<i>F. graminearum</i>	6
459	大分県豊後高田市小田原	R	NIV	<i>F. graminearum</i>	6

注) TM: チオファネートメチル剤

S: 感受性菌 R: 耐性菌